

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

霧島山（新燃岳）では、本日（19日）01時27分に小規模と推定される噴火が発生しました。  
今後も新燃岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。火口から概ね1kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。  
平成22年5月6日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況

新燃岳では、本日（19日）01時27分に小規模と推定される噴火がありましたが、天候不良のため噴煙の状況は不明でした。

#### ・地震や微動の発生状況（図1～3）

火山性微動は01時26分に発生し03時02分まで続きました。この微動の最大振幅は新燃岳南西観測点（新燃岳より南西約1.7km）で $100\mu\text{m/s}$ でした。また、高原観測点（新燃岳から北東約12km）の空振計では1.9Paの弱い空振を観測しました。

火山性地震は今月に入って18日まで114回発生し、本日は16時までに16回（速報値）とやや多い状態が続いています。

なお、本日発生した噴火は、震動及び空振データから推定すると2010年7月10日の噴火よりも規模は小さいと考えられます。

#### ・降灰の状況（図4～6）

気象庁機動調査班（JMA-MOT）の現地調査及び聞き取り調査によると、降灰は新燃岳の南東方向の宮崎県都城市から日南市付近まで確認しています。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

※この資料は気象庁のほか、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号 平20 総使、第385号）。

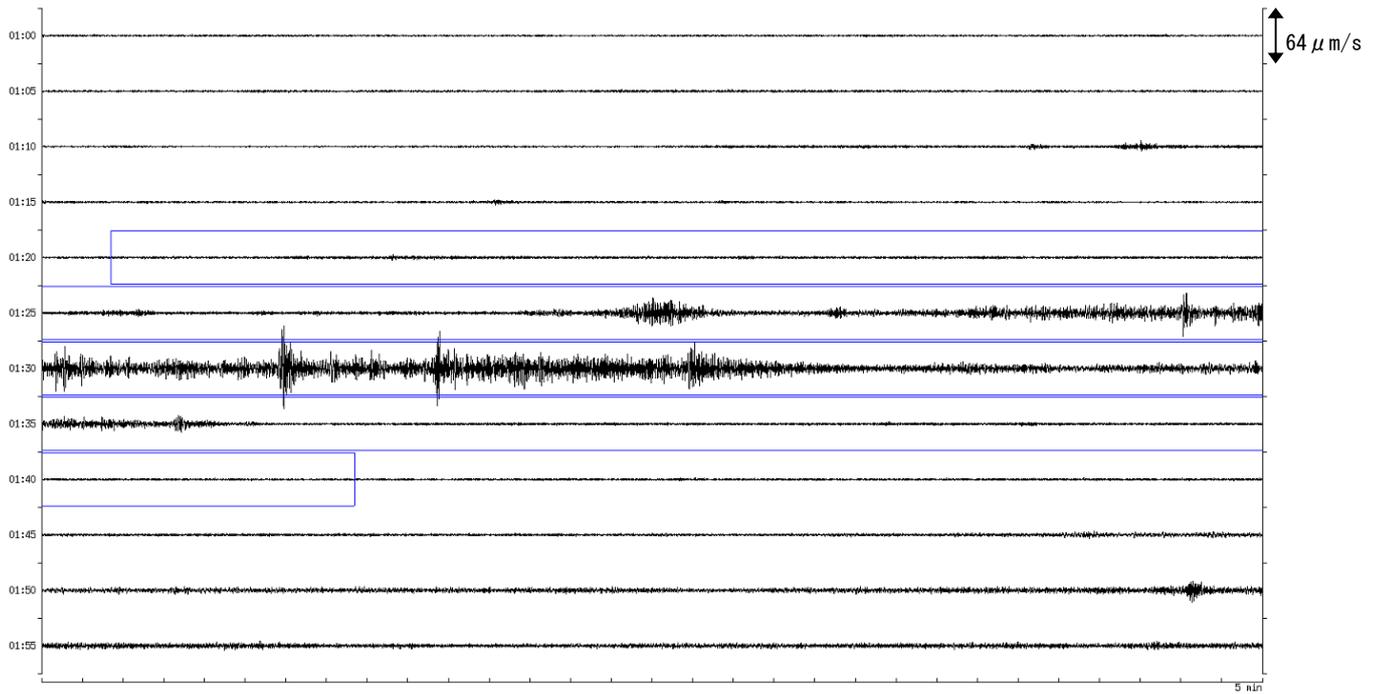


図 1 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う火山性微動  
（新燃岳南西観測点南北成分、2011 年 1 月 19 日 01 時 00 分～02 時 00 分）

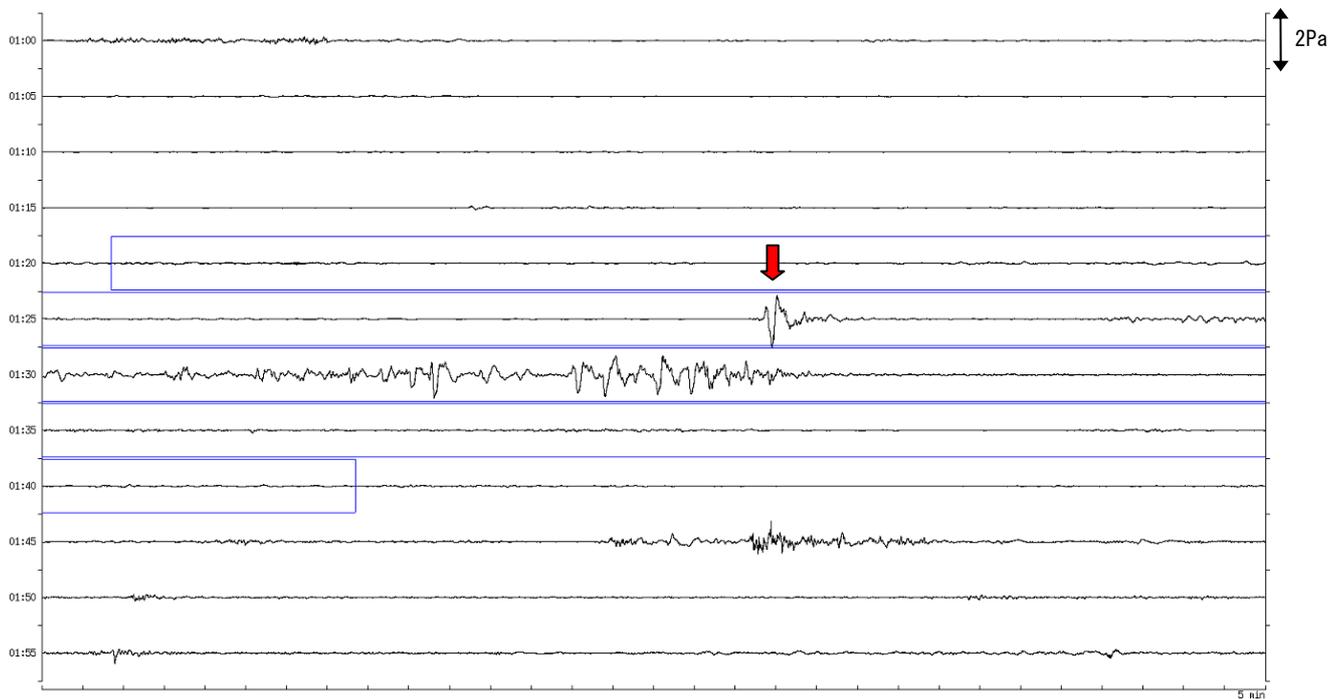


図 2 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う空振波形  
（高原観測点、2011 年 1 月 19 日 01 時 00 分～02 時 00 分）  
赤矢印の振動が噴火の始まりに伴う空振と考えられます。

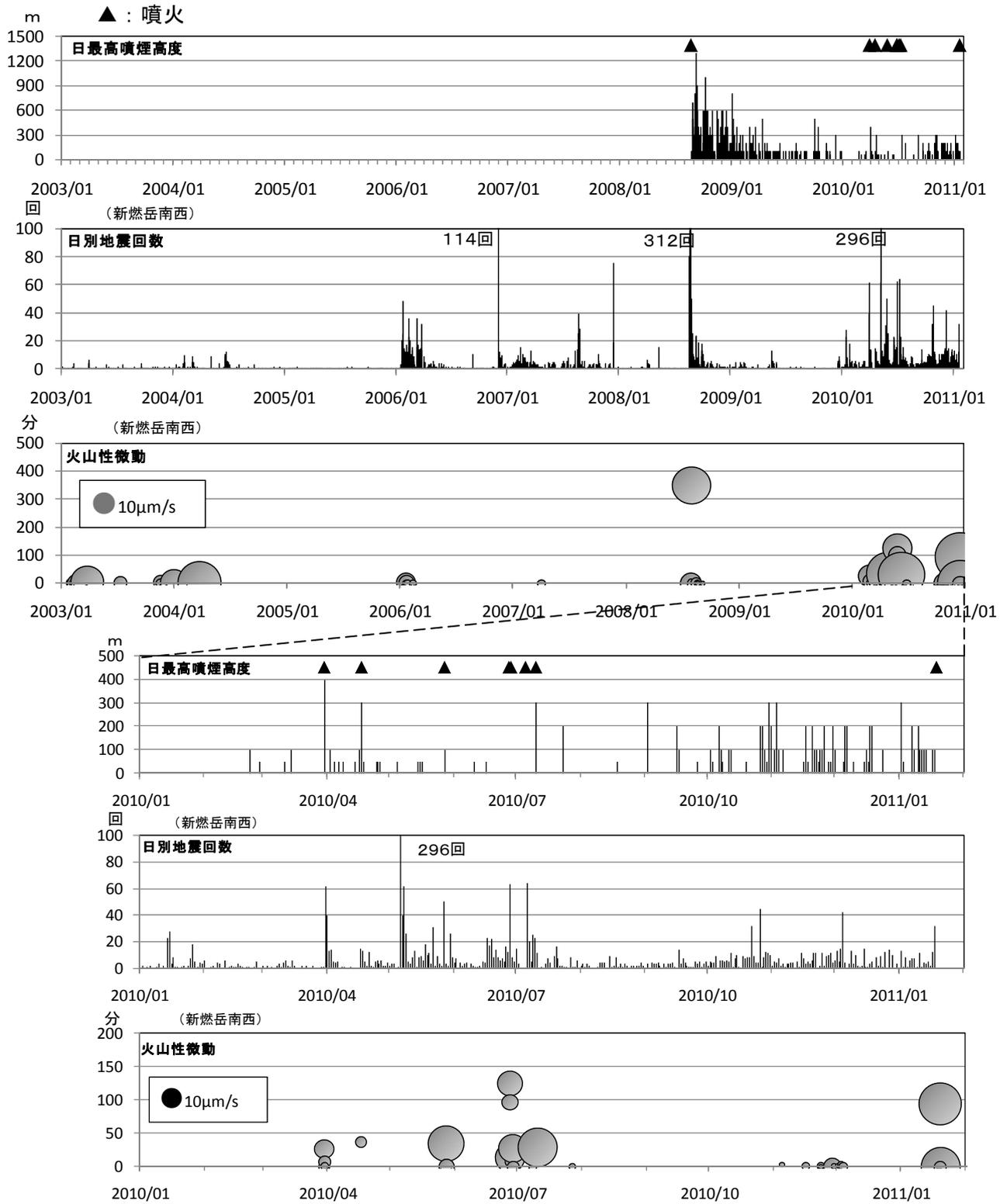


図3 霧島山（新燃岳） 火山活動経過図（2003年1月～2011年1月19日06時）

<本日の状況>

- ・ 噴煙は不明です。
- ・ 火山性微動は01時26分に発生し、03時02分まで続きました。

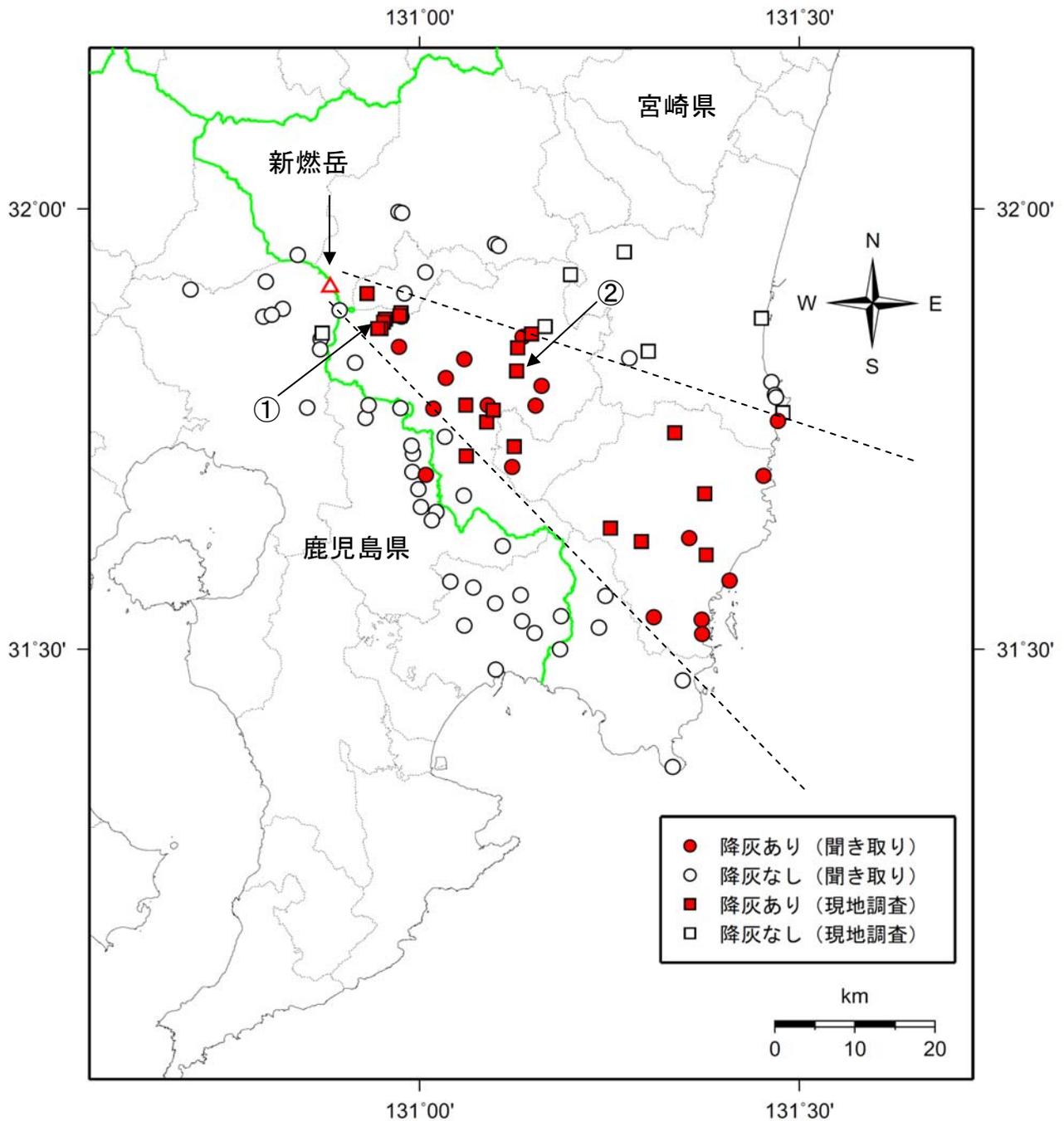


図4 霧島山（新燃岳） 降灰調査状況図  
降灰は新燃岳の南東方向へ分布しており、宮崎県都城市から日南市付近まで確認しています。  
点線は主に降灰を確認した範囲を示しています。  
①は図5の写真の撮影場所を示します。  
②は図6の写真の撮影場所を示します。



図 5 霧島山（新燃岳） 降灰の状況（都城市御池町付近で撮影）  
火山灰が約 5mm 堆積していました（1 m<sup>2</sup>あたり 993g）。



図 6 霧島山（新燃岳） 降灰の状況（都城市高城町石山付近で撮影）  
乗用車の上に火山灰が堆積していました。

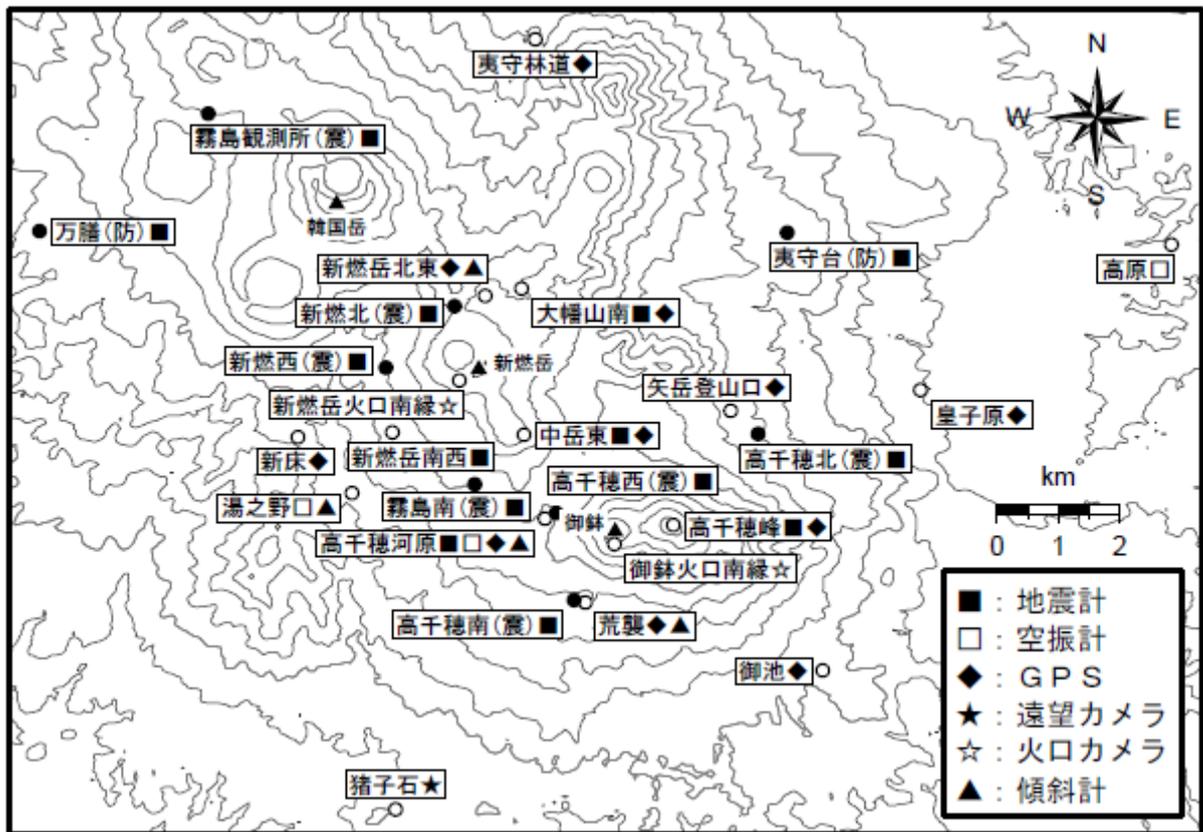


図7 霧島山 観測点配置図

(小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は他機関の観測点位置を示しています。)